

令和4年度【第2回】島根県県民いきいき活動促進委員会 【議事要旨】

日時:令和5年2月3日(金)

13:15~15:45

場所:県庁6階講堂

出席状況

○委員(出席 16名)

小倉委員長、猿渡副委員長、宮下副委員長、岸委員、原田委員、若菜委員、石橋委員、香取委員、中野委員、松村委員、青戸委員、野々村委員、福間委員、藤田委員、河井委員、小笠原委員

○事務局(5名)

竹内部長、原課長、林室長、松近企画幹、岩成主事、土江主事

1. 開会

2. あいさつ 竹内環境生活部

3. 委員就任等について

(1) 新任委員紹介

・青戸委員の後任として田村委員が就任された。

4. 報告事項

以下の内容について、資料に沿って報告

(1) NPO 活動推進室の事業について

- ① 令和4年度 NPO 活動推進室の事業状況について
- ② R5年度 NPO 活動推進室の事業概要について(予定)
- ③ 島根社会貢献活動推進実施要綱改正について
- ④ しまね社会貢献基金団体活動支援事業(提案型)について

(2) 第1回委員会委員提案事項の対応状況について

<質疑応答・主な意見>

◆報告事項(1)について

- ・寄附額、寄附件数が共に多くなっているということだが、その要因はなにか。
 - (県) 寄附件数、寄附額ともに、クラウドファンディングの実施によるものと考えている。
- ・認定NPO法人は、団体への寄付としまね社会貢献基金の寄附のどちらにウエイトがあるか把握しているか。
 - (県) [次回いきいき委員会にて、団体にウエイトがある旨報告]
 - (委員) 認定 NPO 法人である。あるべき姿として団体単独で寄付を集めている。基金はほとんど活用していない。
- ・R5のファンドレイジングセミナーは何団体受講されて、そのうち何団体が事業申請されたのか。また、R4はどうか。
 - (県) R5は、9団体受講されたが申請につながった団体はなかった。R4は、採択団体4団体のう

ち1団体のみが受講団体だった。

- ・クラウドファンディングということが分かるネーミングにする必要があると思う。また、他サイトとの差別化や売りをアピールすると良いと思う。
- ・キャッチとかネーミングは大事だと思う。より多くの方に活用していただけるように事務局だけでなく委員の皆さんで相談して決めたい。事務局へ意見を出してほしい。

[→R4.3 名称変更]

- ・募集を増やすには、過去に基金登録団体の要件に合わず事業申請ができなかった団体へ、継続的に働きかけることが重要と考える。

◆報告事項(2)について

- ・活動指標について「R2, R3の活動実績が0件のものがあり、その中でNPO法人の認定化の支援もゼロが続いているが、支援に力を入れてほしい。また、シンポジウムの開催も検討してほしい。」
→(県)制度ができてから年数が経っていることや、基金登録団体への寄附も税制優遇を受けることができるため、認定化はあまり進んでいない。今年度は、1団体から申請があり認定を行ったところ。県として財政基盤がしっかりした団体をつくらせたいと考えている。また、市町村等からの要望があれば認定NPO法人の研修会などは行ってほしいと考えている。なお、シンポジウム等については、昨年12月にNPOが主体となって「寄付に感謝する集い」を開催いただき、来年度も開催いただく予定。
- ・「県や財団で受けている相談が、今後の施策展開の鍵となってくるため検証してほしい。」
→(県)相談については、認証事務の手続きに関することが多い。県の対応として、今年度モデル定款の策定やガイドブックの改定を実施した。これを活用し支援の拡充を図っていく。また、定住財団の専門相談では、事業運営・会計税務・資金調達に関する相談が多い。これについては、各種セミナーや専門相談を拡充していくことで対応する。また、センパイNPO派遣事業などを活用し支援していく。
- ・「基金登録団体の情報開示について、canpan を積極的に活用してほしい。」
→(県)団体の情報公開は、団体の信頼と支持を得るために重要だと考えている。今回、NPO室でチラシを作成し、基金登録団体に配布した。今後も団体に対して積極的な情報開示を促していく。

5. 審議事項

○次期基本方針改定について

- ・基本問題検討部会(仮)の設置について提案し承認を得た。

6. 意見交換

- ・浜田キャンパス地域政策学部の学生を対象にNPO論という授業をしており、NPOのミッションやポリシー、他者との協働などを主な論点として授業をしている。
- ・5年に1回行われる国の調査「ボランティア行動者率」において、今回島根県が初の全国1位となった。山陰両県のボランティア行動者率は高い。コロナ禍で全体的に下がっている中ではあるが、皆さんの活動や島根県からの支援が全国1位となった要因。県の皆さんにはロゴマークを作成し、PRを行ってほしい。

- ・第39回地域づくり団体全国研修情報交流会島根県大会のプログラムの策定を行った。「市民とともに育む文化芸術」に関連し、松江市民の活動を見ていただくプログラム。関わった団体同士のつながりづくりもできた。
- ・今年度もコロナの影響で各種イベントが中止になっている。各市町村で少子化対策や結婚支援を行っているが、今後どのような形で開催していいのか声を上げていきたいと考えている。
- ・匹見地区では、人手不足をいかにボランティアで担うかということが主となっている。これまでは個別にボランティア会員になっていただいていたが足りない状況。昨年の秋から益田市の地元企業や誘致企業などと連携して匹見の人手不足を解消する取組を行っている。
- ・労働者協同組合が昨年の10月から施行された。出資する人と団体の意思決定をする人、労働をする人が同一。雇う・雇われるという形ではなくみんなと一緒に出資をして活動を行う団体。施行後3年間限定でNPO法人からの組織変更が可能。
- ・NPO法人制度が始まってからNPO法人に関わっている。当初エネルギーをもった人たちがNPOを設立していたが、会員の高齢化などにより後継者不足が深刻となり、解散となるケースも多い。今後は後継者の育成などに力を入れていきたいと考えている。
- ・昨年の10月から殿町ギャラリーで子ども食堂を始めている。子どもたちだけでなく多世代の方に集まってもらえる場を提供できないかと問題提起し、活動を行っている。子ども食堂が県内に広がることを期待している。
- ・クラウドファンディングのような新しいことに取り組んでいくにはトライ&エラーは必須となってくる。新しいチャレンジをしていく中で、本委員会が前向きな議論の場となってほしい。
- ・おもてなし交流事業を実施している。今年度は、商工会で各事業紹介や観光紹介などの動画を作成しYouTubeで公開している。
- ・今年度、浜田市から地域活動を行っている団体を県民いきいき活動奨励賞に推薦した。今後も地域活動を行っている団体を推薦していきたい。
- ・本委員会のように、行政や地域活動を行っている団体・個人の方、企業関係者など多様な主体が一堂に会して情報共有する場は重要と思う。
- ・「くにびき学園」(60歳以上で地域づくりに貢献する方を養成)は、今年で35年目となる。今回、知事から地域づくりに貢献しているとして「わが島根(まち)づくりマイスター」の称号を45名の方に与えられた。その方々が子ども食堂を立ち上げたり、観光ボランティアやガイドをするなど様々な活動に取り組んでいる。
- ・定住財団では、県の補助を受けて専門相談による総務・労務の勉強会などを実施している。団体の主となる活動を支援するのは当然だが、財政基盤の強化となる資金調達や団体の情報発信・情報公開の重要性を伝えていきたい。
- ・社会貢献活動が広がっていくためには、活動が見えることが重要。具体的な活動・想い・どんな社会にしていきたいかなどが見えるようにしてあげる、共感を広げてあげることが大切なのではないかと考えている。
- ・委員からの意見に対し事務局の対応を聞くことができた。そういうやりとりは相互の対話ができる委員会の場として重要である。次の行動になる一歩がこの委員会になればいいと考えている。

6. 閉会

